

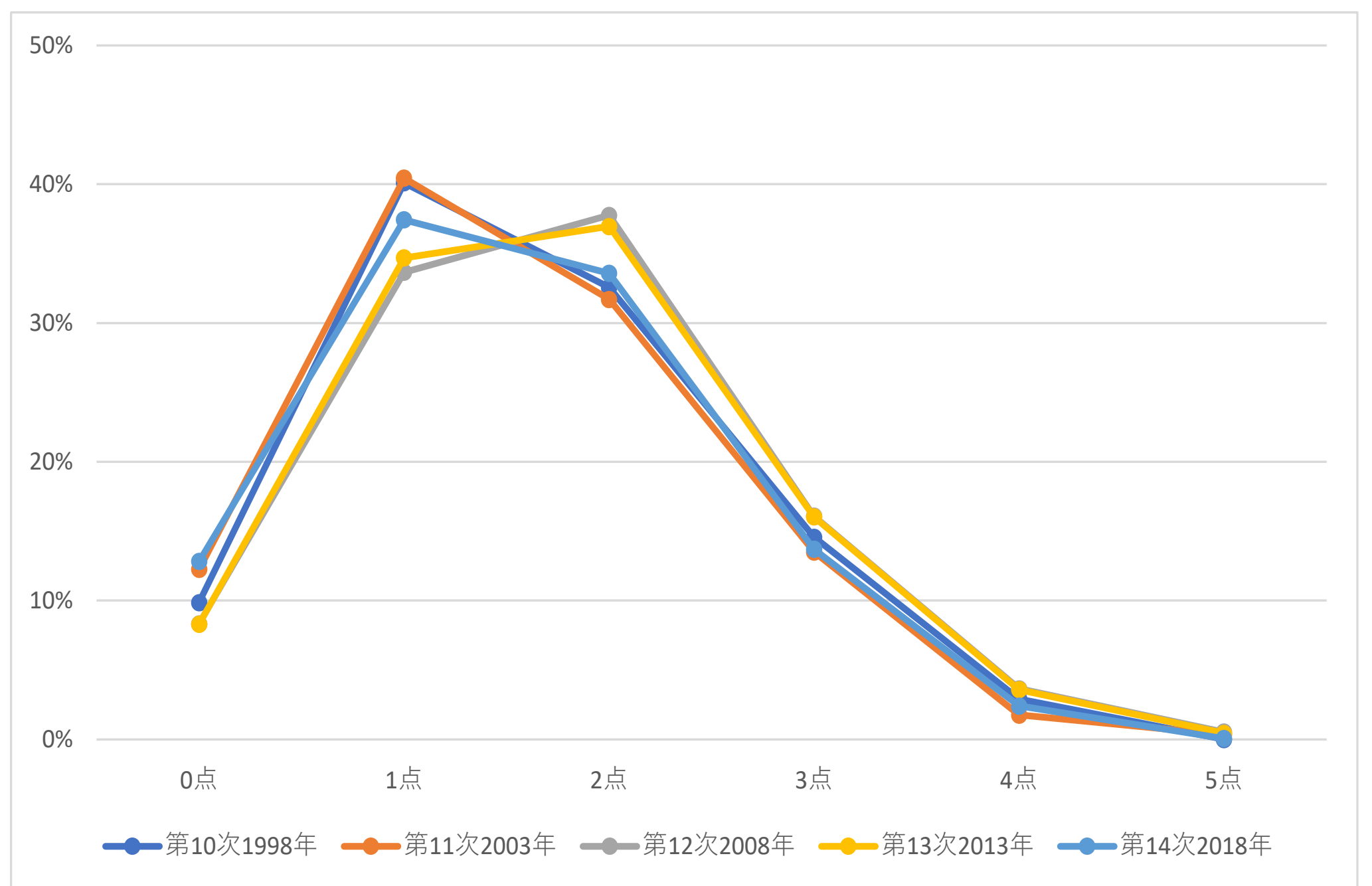
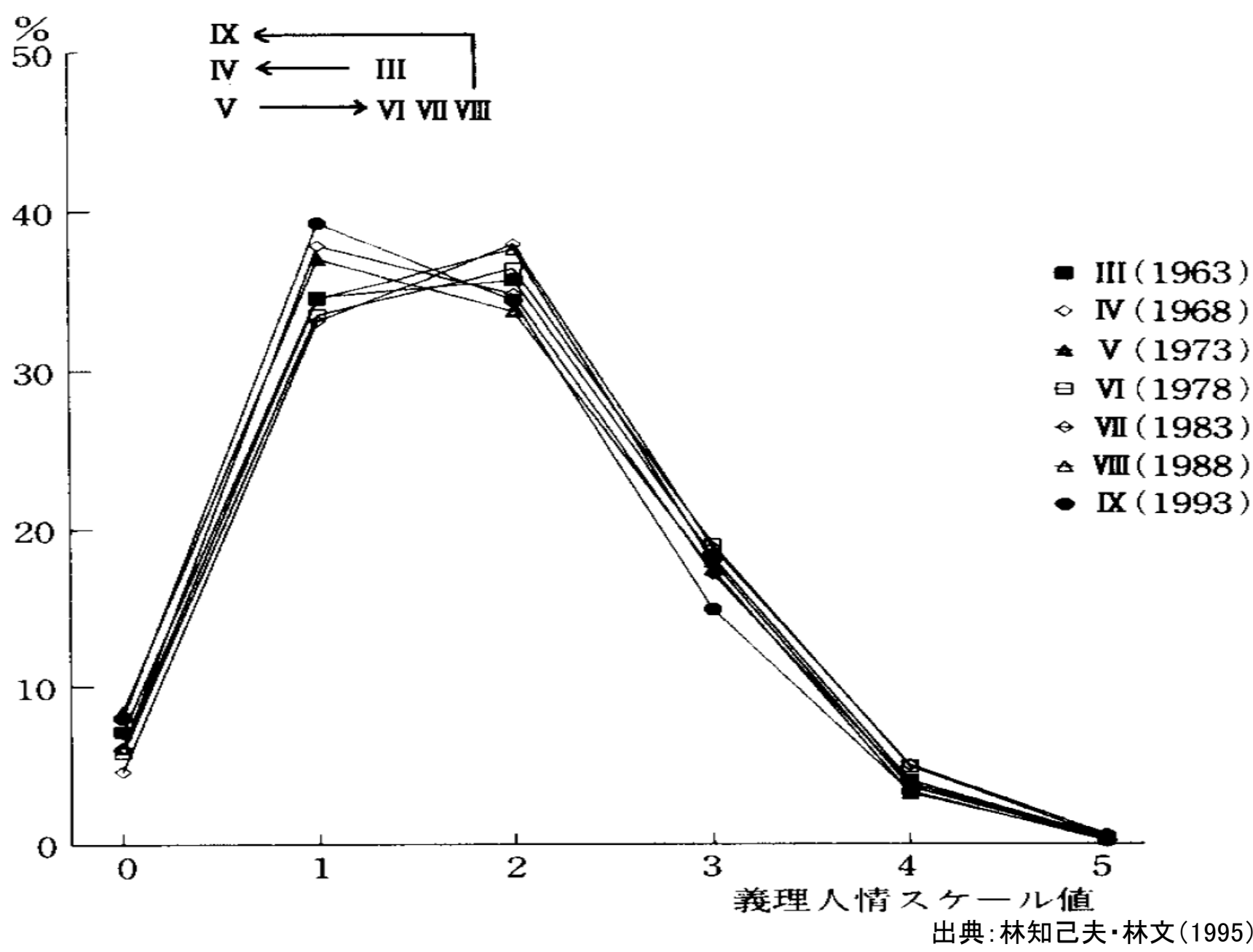
“日本型移住ソーシャル・ネットワークの測定”を試みる ：義理人情度からみた地方への移住意向

朴 堯星 データ科学研究系 准教授

1. はじめに
地方移住に関する先行研究では、移住促進要因の一つとして、対人関係の構築が重要であるとされている。その多くが地域コミュニティや移住先での人間関係といった、地縁組織やコミュニティなどのような地域での人間関係に焦点を置いていることが共通している。例えば、朴・前田・小山・河合(2021)は移住者と移住者をめぐる地域住民を一つのセットにして調査を行い、移住者と地域住民の関係性を測定している。両者の関係性の測定には、Lubben Social Network Scale-6のソーシャル・ネットワークや村岡・井原・生地(1997)による日本語版ソーシャル・サポート尺度を援用しながら、①純粋想起で「思い浮かぶ順」によるソーシャル・ネットワークの数を計測するとともに、②日常生活でのソーシャル・サポートの程度を用いることで、移住先での移住者と地域住民の間にある、明確かつ限定された関係性を変数として捉えることに成功している。しかし、従来の尺度では、これまで日本人が古くから感じる、曖昧かつ限定されていない大まかな対人関係像まではカバーしきれないことが浮き彫りになった。他方で、日本人にとって、「義理人情」という感覚は、長い間、日本人の人間関係を表す特有の特徴とされていたが、義理人情的な考え方には、明確かつ限定された関係性や互恵性の規範を超えたより広い意味での他者への利他的な態度や、いわゆる人情味のような感情などが含まれており、即ち他者に対する思いやりといった大まかな人間関係が含まれている。ただし、これまで地方への移住意向に対する「義理人情度」との相互関係については明らかにされてこなかった。そこで本研究では、日本人固有の人間関係の特徴を表す「義理人情度」が、「地方への移住意向」に及ぼす影響に関する一連のメカニズムを確かめる。

2. 分析に用いられたデータの概要：日本人の国民性調査第14次調査データ
第14次国民性調査は、日本全国に居住する20歳以上の日本人男女から層化多段無作為抽出により抽出された個人を対象、個別訪問面接法で遂行
2018年調査のK型調査票の回収標本サイズ(計画標本)は3209であり、回収数1584、回収率49.4%(詳細についてはhttps://www.ism.ac.jp/survey/index_ks14.html)。

3. 昭和期(1963年～1993年)、平成期から現在(1998年～2018年)の義理人情スケール値の変動



今でも、通用できる尺度であることが浮き彫りになった！！

4. 第14次調査：地方への移住意向の回答割合

日本	<地方への移住意向(2.51)> 'UターンやIターンをしたいか'との回答割合(%)		
	全体 (n=1223)	男性 (n=588)	女性 (n=635)
全体	38% (468/1223)		
<性別(1.1)>			
女性	36% (226/635)		
男性	41% (242/588)		
<年齢層別(1.2)>			
20～29歳	46% (51/110)	42% (26/62)	52% (25/48)
30～39歳	45% (80/179)	43% (35/81)	46% (45/98)
40～49歳	42% (97/230)	45% (54/119)	39% (43/111)
50～59歳	37% (76/207)	37% (38/102)	36% (38/105)
60～69歳	38% (82/218)	46% (43/93)	31% (39/125)
70歳以上	29% (82/279)	35% (46/131)	24% (36/148)
<学歴(1.3)>			
学歴低(中学卒以下)	34% (48/143)	33% (19/57)	34% (29/86)
学歴中(高校卒)	35% (189/540)	40% (104/258)	30% (85/282)
学歴高(大学卒以上)	43% (231/540)	44% (119/273)	42% (112/267)

5. 地方への移住意向を従属変数としたロジスティック回帰分析の結果：モデル間の比較

説明変数	モデル1		モデル2		モデル3	
	オッズ比(95%信頼区間)	p値	オッズ比(95%信頼区間)	p値	オッズ比(95%信頼区間)	p値
<性別>						
女性(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
男性	1.275 (1.008 - 1.613)	0.043	1.369 (1.075 - 1.743)	0.011	1.365 (1.071 - 1.739)	0.012
<年齢層別>						
20～29歳(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
30～39歳	0.925 (0.572 - 1.495)	0.749	0.943 (0.577 - 1.540)	0.814	0.943 (0.577 - 1.540)	0.814
40～49歳	0.846 (0.534 - 1.341)	0.477	0.813 (0.508 - 1.302)	0.390	0.808 (0.504 - 1.294)	0.374
50～59歳	0.698 (0.434 - 1.123)	0.138	0.735 (0.451 - 1.199)	0.217	0.731 (0.448 - 1.193)	0.210
60～69歳	0.734 (0.457 - 1.181)	0.202	0.902 (0.545 - 1.491)	0.686	0.886 (0.535 - 1.468)	0.639
70歳以上	0.508 (0.314 - 0.822)	0.006	0.721 (0.424 - 1.228)	0.229	0.711 (0.417 - 1.212)	0.209
<学歴>						
学歴低(中学卒以下:参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
学歴中(高校卒)	0.911 (0.601 - 1.381)	0.660	0.789 (0.508 - 1.226)	0.292	0.793 (0.510 - 1.234)	0.304
学歴高(大学卒以上)	1.149 (0.744 - 1.774)	0.532	1.002 (0.628 - 1.599)	0.994	0.999 (0.625 - 1.596)	0.997
<都市規模>						
町村～市5万未満(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
市5万～市50万未満	0.717 (0.521 - 0.987)	0.041	0.697 (0.503 - 0.967)	0.031	0.722 (0.414 - 1.256)	0.249
市50万以上～区 6大都市	0.708 (0.496 - 1.011)	0.057	0.714 (0.496 - 1.028)	0.070	0.536 (0.275 - 1.047)	0.068
<地方移住政策への賛否>						
反対(参照カテゴリ)			1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
賛成			3.696 (2.306 - 5.925)	0.000	3.659 (2.281 - 5.869)	0.000
<自国に対する愛着>						
よその国に生まれてきたい(参照カテゴリ)			1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
日本に生まれてきたい			0.586 (0.426 - 0.806)	0.001	0.581 (0.422 - 0.799)	0.001
<インターネットの利用>						
しない(参照カテゴリ)			1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
する			1.392 (0.979 - 1.978)	0.066	1.277 (0.697 - 2.342)	0.429
<義理人情度>						
義理人情スケール合計			1.139 (1.005 - 1.291)	0.041	1.142 (1.008 - 1.295)	0.037
交互作用						
インターネット使用 × 市5万～市50万未満					0.971 (0.490 - 1.924)	0.932
インターネット使用 × 市50万以上～区 6大都市					1.469 (0.660 - 3.268)	0.346
対数尤度	-799.555		対数尤度	-771.162	対数尤度	-770.386
尤度比 χ^2 (df=10)	28.350 (p<0.001)		尤度比 χ^2 (df=14)	85.130 (p<0.001)	尤度比 χ^2 (df=16)	86.680 (p<0.001)
PseudoR ²	0.017		PseudoR ²	0.052	PseudoR ²	0.053
AIC	1621.111		AIC	1572.324	AIC	1574.773
n	1223		n	1223	n	1223

<地方への移住意向>を促すには、一定の限られた範囲での人間関係ではなく、緩やかな範囲での他者に対する人間関係、義理人情的な人間関係が肝心

【参考文献】
朴堯星(2021)「何が地方への移住意向を決めるのか?：現代日本人の「義理人情度」を中心として」、『統計数理』, 第69巻 第2号 315-337
林知己夫・林文(1995). 国民性の国際比較. 統計数理, 43(1), 27-80.
林知己夫・櫻庭雅文(2002)『数字が明かす日本人の潜在力』, 講談社. 東京.